

# 同志社大学と西北大学の学術交流

——西北大学友好考察団を迎えて——

出席者（敬称略・順不同）

鞏 重起（コン チョンチー）

（西北大学校長、教授）

周 国棟（チョウ コートン）

（西北大学計算機科学系副系主任、講師）

甘 棣征（カン チーチョン）

（西北大学外事弁公室主任、研究所副所長）

聴きて

笹田友三郎

（同志社大学経済学部教授）

張 慶嵩（チャン チンソン）

（西北大学物理系々々主任、教授）

通訳

何 煉成（ホー リエンチョン）

（西北大学経済系々々主任、副教授）

李 汝松（リー ルーソン）

（同志社大学文学部客員教授）

西北大学（中国・陝西省、西安市）から鞏重起先生（校長、教授）を同長に、五名の友好考察団が来日され、四月六日から四月二十日までの二週間滞在されました。この間、同志社大学との学術交流に関する会談、学術報告、計算機センターや図書館の見学、学外では、京都市役所、奈良市役所、京都新聞社、京都大学、岡山大学、東京大学、早稲田大学ならびにいくつかの企業を訪問されました。

本稿は帰国される前日に、鞏先生はじめ諸先生に日本滞在中の印象と、同志社大学と西北大学との交流の問題についてお話をうかがい、これを収録したものです。

笹田 早朝からおいでいただきまして、ありがとございました。

きょうは、校長先生に日本滞在中の印象と同志社大学と西北大学の交流の問題について、お話ししていただきたいと思えます。これは、ご存じの『同志社時報』に、校長先生と私の対談というかたちで掲載させていただきま

す。

六日に日本にお着きになりましたから、ずっと過密な日程で、先生方はお疲れになったと思えますけれども、まず日本の印象について、校長先生にお話をうかがいたいと思

います。

鞏 こんど私たちは同志社大学の招きを受けまして、同志社大学を参観訪問しました。京都に着いたときから同志社の総長、大学長ならびに諸先生、学生諸君の熱烈な歓迎を受けました。ここであらためて感謝し、お礼を申します。

同志社大学が私たちのためにつくってくださったスケジュールは非常にゆき届いており、私たちは喜んでおります。こんどの私たちの訪問は、主に西北大学と同志社大学の両校の友好関係をいっそう強めるためのもので

した。

私たちが、とくに学びたいと考えたのは、コンピューター部門の管理と、経済学や物理学などの研究と学部管理にすることです。こんどの私たちの代表団の構成はこうした考えかたにもついでしております。

私たちは日本へ出発するにあたり、私たちがもとの校長、郭先生と教授や学生たちの希望をもってまいりました。つまり、中日両国人民の友好、京都と西安の両市人民の友好、および西北大学と同志社大学の友好を深めるということでした。私たちは二週間の訪問を通じて、これらの目的を達成しました。

この二週間の訪問では、同志社大学のほうから私たちに、教学と研究の経験と、その他各部門の状況を紹介してくださいました。そして私たちにたくさんのお書や資料を贈ってください、ざっと整理しまして書物は四〇種類、一〇〇冊ぐらいに達しております。私たちがとっていちばんうれしいことは、貴学の図書館、資料室、実験室などを参観したことです。これは、われわれの今後の教学を改善することに役立つと思えます。

また訪問の期間中、私たちは学長はじめ教



氏重起 翠

務部長などの諸先生と今後いかに交流をすめるかについて、意見を交換しました。これは、両校の学術交流と友好関係をいっそう発展させるために役立つことと思います。

同志社大学での参観訪問のほかに、京都市長と奈良市長との会見を同志社で手配してくださいました。両市の市長は私たちを非常に歓迎してくださいまして、私たちは感動しました。

このほかに、私たちは日本の企業などを参観しました。たとえば私たちは京都新聞社の印刷工場、放送局、松下電器産業などの企業や銀行などを参観しました。このことはわれわれの訪日の目的とも合致しております。私たちはまた、私たちの古い友達である裏千家にも参りまして、夫人から熱烈な接待を受け

ました。それから、私たちが参観した日本の名所旧跡は、中日両国の古代からの交流をよく反映していると思います。

これらの参観を通して、中日両国はこれから子々孫々、世々代々よくつきあっていくようにという信念を、私たちは抱いたしだいです。私たちは、中日両国人民の友好の歴史を顧みるばかりでなく、これからの友好にも自信をもちました。

同志社大学はまた、いくつかの有名な大学の参観を手配してくださいました。東京大学、早稲田大学、岡山大学、そして同志社と同じように姉妹校である京都大学です。これらの参観訪問を通じて、日本の高等教育の水準は非常に高いことがわかりました。教授たちの学術水準が高いということ、そして教学の施設と教育方法が非常に先進的であるということもわかりました。

日本の学校の特色は、一方では基礎教育を重視し、他方で学生の自主性を發揮させているということです。日本の単位制度は非常にすすんでいると思います。これらはすべて私たちに非常に役に立つと思います。

ひと言でいえば、こんどの参観と訪問は内

容は非常に豊かでした。収穫は大きなもので、大成功です。その成功の主な原因は、同志社のゆき届いたご配慮があったからです。

このほかに、二週間の参観訪問で日本人たちは私たちに非常にいい印象を残してくれました。私たち代表団は、日本に参りましても中国の服を着ておりますから、日本人たちにはすぐ中国人ということがわかります。それで、私たちに非常に友好的な態度を示してくれました。いたるところで、日本人たちは私たちに熱烈な友情を示してくれました。

私たちは、日本の人たちは文明的で、礼儀正しく、仕事には張り切っているという印象をもちました。

さきに申しましたようにこんどの訪問は大成功で、今後、私たちは西北大学と同志社大学、西安市と京都市、中国と日本の友情をさらに深めることに貢献したいと思っております。中日両国人民の友情は、これからもっと発展するだろうと思えます。私たち、つまり西北大学と同志社大学の関係も、これから一段と発展するだろうとたく信じております。



張 慶嵩氏

最後に、同志社の総長、大学長、諸先生方に心から感謝いたします。それからまた同志社大学の日中友好協会の先生方、学生諸君に感謝いたします。同志社大学日中友好協会は、ことしもまた代表団を派遣して、西安市と西北大学を訪問したいとおっしゃいました。私たちは熱烈に歓迎いたします。どうもありがとうございます。

笹田 昨年、私たちが中国を訪問しまして西北大学へ寄せていただきましたとき、たいへんお世話になりました。日中の友好ということを感じたわけでございます。

校長先生は日本の学生が非常に礼儀正しいというふうにおっしゃいましたけれども、いまの若い人たちがほんとうに礼儀正しいかどうか私には自信がないのですが、礼儀はかつ

て私どもが中国から学ばしていただいたことでございます。

西安で陝西省の博物館に案内をしていただきましたときに、碑林を見せていただきました。私たちが中学生のころから習った著名な人たちの書がたくさんありまして、私は非常に感激しました。

私たち日本人は中国からたくさんのお話を勉強させていただきました。これから西北大学との交流が盛んになりましたら、私たちのほうからも西北大学にどんどん勉強のために行きたいと思っております。

校長先生にもういちど、ご意見をお聞きしたいのですが、私たちは第二次大戦後、アメリカに勉強に行った人も多く、アメリカから非常に多くのことを学びました。そのかわりに、東洋的なものよさといえますか、私たちがかつて中国から学んできたものを忘れておったように思います。

日本は中国と非常に近いところにあつて、中国からいろいろのことを学んだわけですが、最近ではアメリカやヨーロッパを研究する人にくらべて、中国を研究する人が少なくなつております。それは非常に残念なこと

です。

いま、先生から同志社の学生のことをいろいろほめていただきましたけれども、私ほもし来年、西北大学に行くことができましたら、中国の学生諸君と接する機会を楽しみにしております。

鞏 中日両国人民の間、中日両国の間、そして中国と世界各国の間、みんなお互いに学ぶところは多いと思います。どの国でも長所もあれば短所もあると思います。

一人の学生としては、外国に学ぼうとすれば、その外国の長所を学ばなければならないと考えております。他国の長所を学び取ることができるとかどうかということは、本人の態度と関連があります。

この点について、私は京都新聞社を訪問したとき少し触れました。日本の人たちはほかの国に学ぶという点では多くの経験があり、真面目であるという印象を残してくれました。これは学生としては、このような態度をとらなければならぬと考えております。

中国人民にも優秀な資質があると思います。中国人民は勤勉で、勇敢で、そして素朴です。歴史的にも、また現在でも、非常に優



笹田友三郎氏

秀な人がおります。彼らは人類の文化の発展に貢献しました。

わが国で鎖国の政策をとりましたとき、私たちは他国の人民に多く学ぶことができませんでした。世界各国はお互いに競争し、お互いに勉強し合い、発展すべきであると考えるおります。私たちはずっと以前から先を進んでいたのですが、封建社会が非常に長く、鎖国の政策をとりましたので、私たちは遅れてしまいました。その責任は中国の封建支配者が負わなければならないと思います。

いまわが国の指導者たちは、本当のマルクス主義者です。私たちは本当の国際主義者です。いまは世界のどの国についても勉強する態度をとっております。解放と交流の政策をとっております。

私たちは、外国の先進的な経験を取り入れて、自国を発展させるという点では、日本人たちに学ばなければなりません。日本は、われわれの非常にいい手本であると思います。これからは、中国は外国に学ぶという点で、もっと大きな成績を収めることができるかと期待しております。中日両国は非常に近いですから、日本に学ぶということは便利なことです。日本の人たちもこの面では大きく援助してくれると考えております。

笹田 私人のことですけれども、私は京都でなくて田舎で生まれまして、田舎で育ちました。お寺の多い町です。西安へ参りましたときに、慈恩寺の大雁塔に案内していただきましたが、ああいうところへ行きましたときには、中国にいるということを忘れて、日本にいるのと同じような気持ちになります。

先生方も、東京は別にしまして、京都や奈良の景観、風物というものには親しみもっていただいたのではないかと思っております。そういうことからこれからお互いに、こちらからも西北大学へ行ったり、西北大学からも同志社へ来ていただいて、交流を深めていかなければならないと思います。

最後に、校長先生から今後の同志社大学と西北大学の学術交流につきまして、きょうの午後からもまた学長先生などとお話があると思いますけれども、どういうふうに通流を進めていったらいいか、そのお考えなり、将来の計画なりをお聞かせいただきたいと思えます。

鞆 両校の交流につきまして、私の考えでは三つの方面があると思います。ひとつは学者の交流ですね。それから、資料や書物の交換と学生の派遣です。

いまは同志社大学のほうに、私たちの大学の先生と二人の大学院生を受け入れていただきました。私たちは姉妹校としての関係を確立して以来、資料の交換も盛んにおこなっております。私たちはこの三つの方面で交流をおこなってゆきます。

交流の面で私たちの学校からみますと、ひとつの障害になるものがあります。それは言葉の問題ですね。学問の水準からみますと、同志社大学の教授方と同じ研究をすることができると考えております。しかし日本語はあまり上手ではありませんから、すぐに共同して研究をすすめることにはまだ困難があると

思います。

ですから、私たちの学校でとらなければならぬ措置としては、私たちの日本語の水準を高めるといふことです。

両校の交流は短い期間ではなくて、非常に長い期間にわたって交流をすすめるということが、私の希望です。いまのところでは私がさっき言いましたように、私たちの日本語の水準はまだ低いのですが、長い目でみればこの問題は解決することができ、長い期間にわたって交流することができると考えております。



李 汝松氏

たとえば、私たちの大学の二人の大学院生は、日本語の水準が低いので学習には困難があると思います。しかし、これはさしあたりこのことで、長い目でみればこの問題は解決で

きると思います。

この方面の問題を解決するひとつの措置としては、日本語学科を設けるということですが、日本語学科は新しい学生を募集する予定です。日本語学科はまだ学生を募集していません。すぐには日本語学科の学生を募集できないということとは、日本語の教員の水準も数も足りないということですが。

こんど同志社大学に派遣された三人のなかで、二人は日本語研究室の先生です。私たちの希望としては、この二人の先生は一年か二年ここで日本語を勉強して、さらに日本語の水準を高め、帰国しましてからこの方面でもっと大きなはたらきをするように望んでおります。

日本語学科の教学の水準を高めなければならぬし、一般科目の日本語教育の水準も高めなければならぬと考えております。長い目からみて、このような措置をとることはどうしても必要だと考えております。いまのところ、もっと同志社大学から多くの先生を派遣してほしいと思います。つまり、もっと多くの先生を派遣して、講義をしていただき、私たちの学校からは多くの学生を派遣して、

ここで勉強するということです。

このような交流を通じまして、今後、両校の友好関係の基礎をつくることができると思っています。

笹田 ありがとうございます。両大学の交流がますます盛んになるように、私も期待しております。

日本へおいでいただき、同志社大学を參觀していただきましたが、お役に立ったことがあれば、私たちは非常に幸せで、心から喜んでおります。校長先生がおっしゃいましたように、こんどおいでになりました先生方は、計算機と物理学と経済学の先生方だったわけですから、計算機センターや同志社大学の工学部および経済学部の教育について、どういう点でご参考になったか、もしほかの先生方もご意見がございましたらお聞かせいただきたいと思います。

張 私はこんど鞆先生について日本を訪問しました。私たちは日本に着いたときから、日本の人たち、とくに同志社大学の先生方からの熱烈な歓迎を受けまして、非常に感動しました。

同志社大学の工学部長と物理方面の教授た



甘 棣征氏

ちは、工学部の状況、とくに物理工学の施設や機械を参観させていただき、実験方面のテキストを贈ってくださいました。

私がいちばん感じたことは、同志社大学の実験室の設備にくらべて西北大学の物理学実験室の設備はまだおくられているということです。印象の深かったことは、実験設備の利用が非常にゆき届いているということです。同志社大学がいかに実験室を十分に利用しているかについて、私は帰国しましてから物理学の先生たちに紹介し、私たちの仕事を改善しようと考えております。

それから、同志社大学の諸先生方の研究のこともわかりましたが、もうひとつ印象の深かったことは、同志社大学の学生たちは非常に活発だということです。これらのことは、



何 煉成氏

帰国しましてからわが学部<sup>の</sup>先生たちや学生に伝えたいと思います。また同志社大学の案内で、私たちはほかの大学の物理学の教員面<sup>の</sup>ことをいろいろ学びました。私たちが学びたいことは非常に多いのです。

私は、ひと言でいえば非常に喜んでおります。中国人民と日本人の友情と西北大学と同志社大学の教職員、学生の友情がさらに発展していくよう祈念しております。

甘 こんど私は、同志社大学の招きを受け、輩学長<sup>に</sup>つきまして、同志社大学を訪問し、至るところで熱烈な歓迎を受けました。ありがとうございます。

同志社大学の訪問を通じて、私は学ぶところがたいへん多かったと思います。感激も非常に深かったと思います。いちばん感じ

たことは、日本の工業と農業が非常に先進的だということです。企業管理をはじめ、各方面の管理の仕事も進んでいると思います。そして労働者も農民も学校の先生も真面目だということです。日本の人たちは、中国人民に対して友好的な感情を抱いており、私たちはいたるところで日本の人々から中国語で「你好」とあいさつされました。

私たちは日本の大学を参観しまして、日本の大学の教育や研究は非常に水準が高いということがわかりました。私たちがこんど派遣した二人の大学院生をみますと、同志社では修士の学位を取るとはむずかしいようです。これからみても、同志社大学の学生と大学院生の水準は高いということです。

私たちは同志社大学から教員と管理についていろいろかがいまして、学ぶ点が非常に多いことがわかりました。私は同志社大学の学生とすし接触しましたが、同志社大学の風紀は非常にいいですね。学生たちは学習に精を出しているばかりでなく、課外活動が盛んです。興味が多面的だということがわかりました。私たちは同志社大学での貴重な経験を西北大学に持ち帰りたいと思います。

私は、西北大学で国際交流方面の仕事に携わっている者ですが、私たちは同志社に参りまして、今後、両校はいかに関係を密接にし、交流を盛んにするかにつきまして、意見を交換しました。両校の交流、とくに人の交流と資料の交流の面でさらに大きな成績をおさめるように祈念しております。

何 こんど日本へ参りまして、たくさんのごことを学びました。同志社大学は、私たちの参観訪問に非常に努力を払ってくださって感謝いたします。

私は、二つのことについてお話ししたいと思います。日本の工場と企業管理に対する視察を通じまして、日本はこの方面では非常に先進的だということがわかりました。この面では私たちは学ばなければならないと思います。



周 国棟氏

す。それから同志社大学で経済学部の方先生方といろいろ意見交換しまして、この方面でも私たちには非常にいい刺激になりました。

私のいちばん印象の深かったことは次のことです。そのひとつは、同志社大学の経済学部では基礎教育を重要視しているということ。この基礎というのは経済方面の基礎ばかりでなく、いろいろな方面の基礎も重要視しているということです。第二は、同志社大学経済学部の教学と管理の面についてです。

いろいろ自分の主張を発表することができて、百家争鳴、百花斉放ということを展開しているということ。第三は、教学面で非常にゆき届いており、厳格にしているということ。学生に対する要求も厳しいよう。そして最後に、教授の研究は深くて広いということ。以上は私の同志社大学経済学部に対する印象です。

つぎに、私は二つの希望を述べたいと思います。そのひとつは、日本の経済思想家の経済思想を紹介提供してほしいということ。第二の希望といえますのは、これから同志社大学のほうから多くの教授を派遣して、西北大学で講義して欲しいということ。

最後に私は、西北大学の経済学の教職員と学生を代表して、笹田先生のいらっしゃるのをお待ちしていると申しあげたいのです。

笹田 ありがとうございます。

周 こんど私は専校長につきまして同志社大学を訪問し、熱烈な歓迎を受けまして、感謝しております。私の収穫は多いのです。

私たちはここに参ります前にも、資料からコンピューターの面で日本は非常に先進的だということを知っておりました。ことわざにあるように百聞は一見にしかずで、二週間の参観訪問を通じまして、その印象はいっそう深かったということです。私たちは参観訪問を通じまして、同志社大学はコンピューター方面の教育と研究の面でも非常に先進的だということがわかりました。

同志社大学は、計算機センターの役割を重視しており、計算機センターはその機能をいろいろな面で発揮しています。それから、計算機センターの管理の面でも先進的です。同志社大学の計算機センターは職員は四人しかおりませんが、同志社大学と同じような計算機センターだったら、ほかの学校では少なくとも四〇人、一〇倍の人が必要でしょう。

同志社大学から、コンピューター方面についての資料もたくさん贈呈してくださいました。これらの資料は、これから計算機について学ぶのに非常に貴重なものです。同志社大学はまたほかの学校や銀行と連絡して、私たちの参観に役立ててくださいました。

いちばん感じたことは、日本の計算機の発展が非常に早いということです。計算機は、いろんな面で応用されており、この面では私たちは学ばなければならぬと思います。

こんどは時間が短かったので、いろんな方面を全部見ることができませんでした。これからもっと詳しく勉強したいと思います。今後も同志社大学から計算機の資料と経験とを提供していただき、計算機関係の教授を派遣して、西北大学で講義してくださいるよう念じております。

笹田 先生方がおいでになりました奈良も、それから京都も、昔の西安をモデルにして、都をつくったわけですけども、こんど先生方が日本においでになりました。奈良や京都をごらんになりました印象はいかがでございますでしょうか。この点についてお話しをうかがえればと存じます。

張 笹田先生のいまおっしゃった京都と奈良の印象についてですが、私はその問題に非常に興味をもっています。

京都市にも奈良市にも非常に古い建物があります。新しい施設もあります。しかし西安市の古い建物は、奈良市と京都市の古い建物よりもさらに古いものです。建物が古いということには共通性がありまして、私には親近感がありました。しかし西安の現代的な建物や施設は、日本の奈良と京都にはおよびません。

私は、京都市と奈良市でたくさんの中学生と小学生を見ました。私は非常に興味をもったのですが、その学生たちはかわいらしく、そして礼儀正しいという印象をもちました。

両都市の市長と市民は、私たちに友好的で、私は非常に喜んでおります。

何 私もひと言お話ししたいと思います。

こんど奈良を参観するとき、鑑真のお墓を見ました。鑑真はわが国の唐代の人で、日本へ参りまして、仏教を伝えたという点で非常に貢献した人です。日本の阿倍仲麻呂も中国で長く生活していました。阿倍仲麻呂も中日友好のために貢献しました。

鑑真と阿倍仲麻呂は、古代の中日両国の文化交流に貢献しました。鑑真は和尚であるけれども、実際には学者です。この二人を通じて、中日両国人民は学术交流をしました。いまも古代と同じように、学术交流を盛んに推し進めなければならないと考えております。

笹田 先生方はあす中国へお帰りになるので、非常に名残惜しく思っております。いろいろお話をおうかがいしました内容は、最初に申しましたように『同志社時報』という雑誌に載せまして、同志社の教職員の皆さん読んでもらうことにしております。先生方のご旅行の平安を心から祈っております。どうもありがとうございます。

(一九八二年四月十九日収録、於同志社有終館第二会議室)